

HDM推進会（第28回）／ごみゼロネット推進会（第50回）議事録

開催日： 2012年（H24年）8月 8日（水）14:00～16:00

場所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 平林、加藤、大橋、杉本、川村、桐生（作成）

議題：



1. 関連各種情報（加藤）

- 8/3、NPO 有機肥料普及協会の大島副理事長と共に、市の環境部長等に北海道三笠町で指導して導入した分別収集して堆肥化する方式のPRに出向いた。「うまく行っている、小金井市もやりませんか」という持ち掛けであったが、市側は①分別収集はやらない、②生ゴミ処理を施設を作ってやることは考えていない、③こんな話を今持ち出したら、広域支援等の話が全部ダメになってしまう、と剣もほろろの回答で、あっという間に終わった。3月までに稲葉市長が「方針を出す」といっている現時点では他に手の打ちようがない。
- ダイナックスから5ヶ月前に出された評価書は「他の自治体を刺激しないように文面の調整中」として、依然、加藤氏も見ることができない。行政は先日、渡辺議員には見て貰ったという。ごみ減量審議会のメンバーが審議する期限が迫っているのに、資料もなしでどうするつもりか。
- ごみ問題に関する稲葉市長から出されたと思われる方針も、市長自身が読んでいないと判明。全ては市の役人が好きなようにやっている。特に柿崎部長の意向が強く反映されている。
- 東町の市民グループは「二枚橋跡地にはごみ関係の施設は一切作るな」と声高に叫び、行政はそれに怯えて手が出せないでいる。他の自治体、特に国分寺市は「小金井は自分勝手なことを言っている自市では処理せず、他市に全ての処理をやらせようとしている」とこの住民エゴに厳しい目を向けている。
- トータルのごみ処理費用は26.7億円であるが、ごみの種類別の費用を質問しても市は回答できない。計算方式が国や東京都とも違っており、人件費を種類別にどう割り振るかなどが不明確である。井勘定では夫々のごみ種類別にどの様に手を打っていけばよいのかさっぱり見えてこない。

2. 第14回HDM導入検討会議事録の読み合わせと問題点の討議

- 市側の担当が中福氏の時は討議の項目だけしか書いてくれなかったが、今度の今井氏は同日中に議事録を書くようで、正確に会議の全貌が記載されている。彼は有能である。
- この会議では、平林氏から「実証試験の生ゴミ量の確保が不足する場合に備えて、事業用や給食の生ゴミも入れることを考えてはどうか」と発言あった時点で、時間内であったのに市側が「市民側の委員間の意見に重大な意見の食い違いがあるので、市民側で調整していただくために本日の会合はこれで中止する」と宣言してサドンデスになってしまった。議事録案の第3頁の下から1/3付近の記述がそれに対応する。
- この問題は、事業系や給食の生ゴミは、「廃棄すべきごみ」ではなく、「食品リサイクル法に基づく資源」であるために、HDM実証試験の目的の大前提が崩れるのを恐れての市側の反応であった。
- 討議の結果、①家庭系生ごみで十分な量を確保することに不安はない、②実証試験は家庭系生ゴミに限定、③本日会議終了後に平林、杉本両氏で今井氏を訪ね、改訂内容を示して議事録の改訂を申し込む、と決定した。

3. 行政との折衝窓口の代表者の交代

代表者である平林氏より「最近、体調が勝れず、毎日のように治療や検査のために武蔵野日赤に通っている重篤な疾患である可能性も示唆されており、責任の重い代表者を交替したい」と申し出があった。

協議の結果、加藤氏が代表、副代表は杉本、川村両氏となり、今後の行政との折衝に当たることとなった。

以上

次回打合せ： 9月12日(水) 10:00~12:00 コミュニティサロン・はけ

1/1